

(116 号より)

国語力のある子には次の 3 つの特徴があります。

- (1) ていねいに文字を書ける。
- (2) 正しく整った文を書ける。
- (3) 思考プロセスが明確。

(2) (3) は簡単に身につくものではありませんが、(1) なら意識することで今日から実践することができるでしょう。(1) に気をつけながら、(2)、(3) の力を身につけていきましょう。(略)

ていねいな字で正しく整った文章を書く練習台

ポイント：ケイ線やマス目にあわせて書くだけでもきれいに見える。

字は、上手でなくてもいいのでていねいに書きましょう。ケイ線やマス目にあわせて、字の大きさや位置をそろえるだけでも、ずいぶん見た目の印象が変わります。

毎日の授業で意識していると、継続は力なり。あまり上手でなかった子でもそれなりに整った文字が書けるようになります。文章も、主語、述語に気をつけて正しく書きます。メモなら自分だけにわかればいいのですが、誰が読んでもわかるように書く癖をつけましょう。つまり、客観的な文章を書くということ。実は記述力アップにつながるのです。

《英語編》メモ欄を活用して、あとから見てもわかるように

ポイント：先生が板書しなかった解説や、疑問に思ったことなどをメモ書きしよう！

先生は大事なポイントをすべて板書するとは限りません。板書を写しただけでは、あとで復習するときに、「なぜそうなるのか」がわからなくなります。板書されなかった解説も、かいつまんでメモしておきましょう。(※メモをするスペースを自分で決めておくといいでしょう。) メモ欄には、先生の解説以外にも、自分なりの解釈や、疑問に思ったこと疑問に思ったことなどを書き込みます。疑問点はあとで必ず確認するようにしましょう。あとで授業を振り返るときに、解説や注釈を書き加えることはよくあるものです。メモ欄はそういうときにも役に立ちます。

(略)

授業は、毎回新しい単元に進むのではなく、前の授業を振り返ることがよくあります。その時に、また一から板書を写すのは時間の無駄です。同じことならわざわざ書かないで、その時間、先生の話集中して聞いた方がいいのです。

そして、前の授業で聞いてなかったこと、書かれなかったことなど、新しく加わったことだけを書き加えます。そのためにも、あらかじめたつぷりと余白を空けておくことが必要です。

【ノートは 1 度書いたら終わりではありません。

書き加え、更新し、進化させていくことで、学習が深まるのです。】

という本の内容でした。ノートが有効活用できるよう、自分で工夫するのも 1 つの方法かもしれません。まずは、自分のノートを見直してみてください。

